

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470900180
法人名	医療法人 豊和会
事業所名	グループホーム あらしま
所在地 (電話番号)	鳥羽市安楽島町字高山 1075-29 (電話) 0599-26-7200
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 9 月 8 日(月)

## 【情報提供票より】(H20年8月12日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算15.25 人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄筋準耐火 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	2,450 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

### (4)利用者の概要(8月12日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1		要介護2	10 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5		要支援2	名
年齢	平均 83 歳	最低 68 歳	最高 92 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	豊和病院 寺本歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、鳥羽市郊外安楽島町の眺望のよい高台にある(周りにはホテルが点在している)。当施設は在宅介護複合施設で、デイサービスセンターと併設されている。職員は「その人らしさを大切にしながら明るく穏やかに過ごせるホーム」を理念に利用者の支援に努めている。そして職員は、介護計画とそれにもとづく日常の事業所内外の生活援助を一体となって取り組んでいる。また、二人のアニマルセラピストによるアニマルセラピー(動物介在療法)は利用者の表情を和らげている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>制度の変更に伴い、理念の見直しが行われている。また、市の主催する研修会には年間を通して参加して市の職員との交流を図っている。災害対策には近隣のホテルに協力を呼びかけている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者と職員全員で行っている。外部評価についても実施する意義を理解し、利用者の支援を行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催されており、会議では事業所側の報告だけではなく、出席者の意見・要望が出され、内容等については全職員に知らせサービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議で出席した家族の意見・要望を聞いたり、家族の来訪時や電話などで意見・要望をこまめに聞くようにしており、その要望については全職員で対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議の話し合いや地域や家族の話から情報を得て、地域の老人会のカラオケや「注連縄」づくりに参加している。また、併設されているデイサービスセンターの利用者(ほとんど地元の人)と交流を図っている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしさを大切にしながら明るく穏やかに過ごせるホーム」を理念に地域や職場で職員が楽しく働くことに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全体で話し合って作った理念を念頭において、利用者一人ひとりの日々のケアに生かすように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議での話し合いや地域や家族の話などから情報を得て、地域の老人会のカラオケや「注連縄」づくりに参加している。また、併設されているデイサービスセンターの利用者(ほとんど地元の人)と交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者と全職員が自由に記入しあい、意見交換して行っている。外部評価についても実施する意義を理解し、利用者の支援を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されており、会議では事業所側の報告だけではなく、出席者の意見要望が出され、内容等については全職員に知らせ、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や包括支援センターの主催する研修会にはその都度全て、職員交替で参加して市の職員と交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人の発行する便り、職員手作りのホーム便り・電話や家族の来訪時に、日々の生活ぶりや健康診断の結果などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で出席した家族の意見要望を聞いている。また家族の来訪時や電話などでも意見・要望を開き全職員で対応している。	○	家族に対する働きかけは工夫されているが、家族からの意見が少ない状況である。利用者の家族には何でも言ってもらえる雰囲気づくりをして、積極的に意見を出してもらえるよう今一度工夫されることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近では事業所での異動が無い。新しい職員があれば、法人全体の新人研修を受け、早くよい関係が作れるよう、利用者や家族に不安を与えないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は資格取得のための研修には積極的に参加している。事業所内では3ヶ月に1回感染症予防など具体的なテーマの研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国及び三重県グループホーム連絡協議会に加入し、同業者の情報収集を行っている。地域の同業者ともお互いに実習や見学の受け入れを行い交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ほとんどが、ケアマネジャーからの紹介で来訪している。本人・家族と担当のケアマネジャーが見学や職員と話し合いながらサービスを開始するように努めている。今後はショートステイを利用した取り組みをしたいが、今の事業所にはそのスペースがないので困っており検討中である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの職歴や趣味、思いを大切に、職員は利用者と一緒に生活する中で、教わる気持ちで支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にいろいろ問いかけてもなかなかニーズが出ず、職員は苦労している。しかし、本人との日々の会話や表情などで本人の気持ちや思いを把握するように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議に本人を交えて話し合ったり、家族の意見・希望を加味して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、見直しを行っている。変化が生じたときは随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の受診、入退院時の送迎は家族対応を基本としているが、家族が無理なときは職員が対応する。家族の夜間来訪にも対応している。花見や散歩など日々の外出の支援は職員が積極的に行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望するかかりつけ医の有無について事前確認を行っている。週1回の協力医の往診以外にも、必要があれば随時受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在看取りの実施は行っていない。家族との話し合いを行っており希望の把握をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	お便りの写真の掲載は本人・家族の同意を得ている。声掛けや対応については職員会議や申し送りのときに指導し、日常生活で利用者のプライバシーを損なわないように努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応、日課表があるが利用者のその日の希望や体調などによって適宜変更しながら支援をしている。一度に大勢の見学者が来ると利用者がびっくりするので、お断りしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは本人の意思にそいながら無理にさせない。無理に一緒にさせると、かえって利用者間にトラブルが生ずる。食事は利用者と職員と一緒に楽しく行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日が決まっているが、希望や必要があれば何時でも入浴は可能である。入浴を嫌う利用者には声かけなどをして入浴されるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付けなど利用者が自分にあつた役割をしたり、日々の生活を楽しんでいただけるように支援している。また、散歩や犬とのふれあい(アニマルセラピー)にも対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や畑、買い物などできるだけ外出するよう支援をしている。なお墓参りについては家族対応としている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛けることの弊害は理解しているが、事業所は2階にあるためユニットの出入り口には階段からの転落防止のため施錠している。日中は玄関などには鍵はされていない。	○	2階ということもあり、安全面に配慮してセンサーを取り付けるなどのアイデアを出し合い、しかしそれだけに頼りすぎることなく見守りの方法を徹底し、鍵を掛けないケアの実践に取り組まれることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練(夜間想定も含む)を実施している。協力体制については近隣のホテルに働きかけている。	○	AED(自動体外除細動器)の使い方、人工呼吸など救急時の訓練を消防署の協力を得て実施されるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設事業所の管理栄養士が利用者の体調などに合わせた献立を作成している。行事の時と週1回は利用者の希望を取り入れた食事を作っている。時には事業所の畑で取れた野菜も使われている。水分の摂取については、常時食堂にお茶が置かれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂、浴室・トイレは明るく清潔である。壁には利用者が作成した書やちぎり絵などが飾られており、居間には季節の花が置かれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真やテレビなどが置かれ、中には仏壇を置かれた利用者もいる。		